

ドクダミ科 ハンゲショウ属

ハンゲショウ (半化粧)

Saururus chinensis (Lour.) Baill.

自生環境

湿地、水辺、河川敷 など

原産地

日本在来

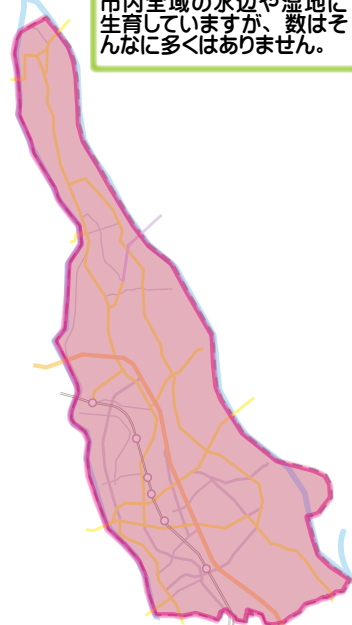
生育を脅かす要因



湿地に生える植物ですが、全国的に数が減っているようです。外来種の繁茂や埋め立て、護岸整備などにより、生育場所が失われてしまうことが主な原因と考えられます。

市内の分布状況

市内全域の水辺や湿地に生育していますが、数はそんなに多くはありません。



特徴

- ☆ 湿地に生える多年草で、地下茎を張り巡らせながら増えていくため、しばしば群生します。日当たりが良く開けた場所よりも、湿地林または、林縁に接するような湿地を好む傾向があります。
- ☆ 葉は光沢があり、葉脈がへこんで目立ちます。少し揉むと独特の臭いがあります。草丈は 60 ~ 100cm ほどになり、6 ~ 7月頃、茎の上部に花の穂をつけます。穂の長さは10~15 cm にもなりますが、個々の花はとても小さくて地味なものです。代わりに、穂のわきにある葉が白く色づき、遠くからでもよく目立ちます。花後、白く色づいた葉は薄緑色になります。
- ☆ 個々の花は、花びらもがくもなく、雄しべと雌しべのみからなります。このような花を裸花（らか）と言い、ドクダミ科の植物に見られる特徴のひとつです。

ハンゲショウと半夏生

雑節の半夏生（7月2日ごろ）は、「ハンゲの生えるころ」という意味です。ハンゲはカラスビシャクのこと、ハンゲショウが咲くから半夏生ではありません。でも、まったくの無関係というわけでも無く、まず雑節の半夏生が先にあって、ちょうどこのころに咲くから、ハンゲショウだ、とする説があります。一方で葉の表側が白くなるので、半分だけ化粧という意味の半化粧とする説もあります。



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

